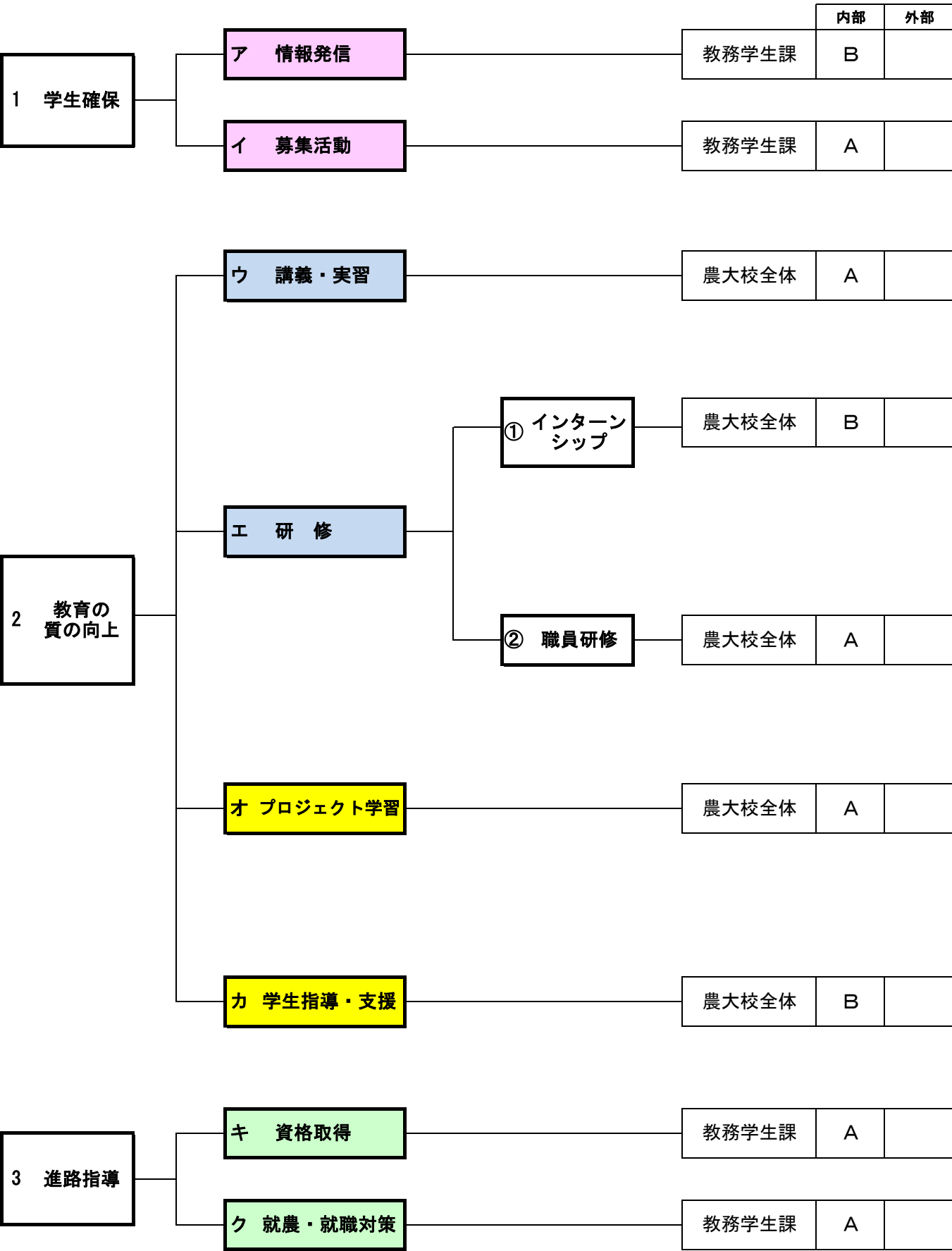


令和8年度 外部評価委員会



学校評価における「評価項目」



学校評価における「評価基準」の考え方

評価	評価基準の考え方	
	数値目標がある場合	数値目標がない場合
S	達成度 100%以上	期待を上回る特に顕著な成果がある
A	達成度 90%～100%	期待を上回る顕著な成果がある
B	達成度 70%～89%	概ね期待される成果がある
C	達成度 50%～69%	期待される成果を十分に上げられなかった
D	達成度 50%未満	得られるはずだった成果をほとんど上げられなかった

評価項目	1. 学生確保	ア. 情報発信	教務学生課
------	---------	---------	-------

令和7年度の目標	校内外に向けた学校HP・SNS等を活用した情報共有・発信
----------	------------------------------

■取組計画 ☆は、新たな取組又は強化する取組 ※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応	
◇目標に対する取組等 <u>①年間スケジュールに基づいて計画的な情報発信を行う</u> ・広報委員会を学期1回実施し、年間計画に基づく情報発信に努める。 (年間目標：Facebook年間100回更新、ホームページ30回更新) ・農大ホームページの全体的なリニューアルを図る。☆ ・FacebookとInstagramを紐づけ、閲覧数の拡大に努める。☆ <u>②効果的な情報共有（SNS活用の推進）</u> ・こまめに情報を収集し、学生の活動や行事の成果などを発信する。 ・各種SNSを更新する人数の増員し、更新の頻度を上げるなど情報発信力の向上に努める。 ・Teamsを活用して更新内容のチェックを行うなど、 <u>更新作業の負担軽減</u> に努める。☆ <u>③県外校へのPR活動</u> ・PR手法の検討と構築を図る。☆ ・近年、県外からの学生が入学している状況であるため県外校へのPR活動を図る。 (※令和6年度：9名及び令和7年度：10名の県外出身者)	

■取組実績と成果 <u>①年間スケジュールに基づいて計画的な情報発信を行う</u> ・Facebook更新 目標：年間100回以上 結果31回（達成率31%） ・農大ホームページ更新 目標：年間30回以上 結果24回（達成率80%） ・農大のHPのリニューアルについて広報委員会で検討を行った結果、全体的なリニューアルには至らなかったが卒業生のインタビュー記事などを載せるなどの改善を行った。 ・FacebookとInstagramの紐付けができないか方法を模索したが法人アカウントのため紐付けができないことがわかった。 ※情報発信に関しては、起案しての投稿となったことから頻度が低下した。	
<u>②効果的な情報共有（SNS活用の推進）</u> ・学校の行事等をFacebookで学生の活動や成果を発信することができた。 ・Facebookを更新する人員を増員して、更新頻度を上げるように努めが、特定の人に更新が偏ってしまった。 ・更新内容のチェックについては、起案して投稿をすることで投稿業務の負担が増え、頻度が低下したが、充実した内容とすることができた。	
<u>③県外校へのPR活動</u> ・PR手法について、広報委員会で検討を行い専門家による農大のPR活動の効果の検証を行えるよう取り組んだ。 ・福岡県立糸島農業高校、鹿児島県立曾於高等学校に進路ガイダンスに行き学生の募集を行った。	

内部評価	B	Facebookの投稿頻度が昨年度より少なくなった。 広報委員会を定期的に開催し、PRについて検討を行うことができた。
外部評価		

◆次年度への課題 学生と連携した情報発信体制の確立。 ターゲットとなる高校生に届きやすい情報発信方法の習得。

評価項目	1. 学生確保	ア. 情報発信	教務学生課
------	---------	---------	-------

令和8年度の目標	校内外に向けた学校HP・SNS等を活用した情報共有・発信
----------	------------------------------

■取組計画

☆は、新たな取組又は強化する取組 ※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

◇目標に対する取組等

①年間スケジュールに基づいて計画的な情報発信を行う

- ・広報委員会を学期1回実施し、年間計画に基づく情報発信に努める。
(Facebook等の各種SNS投稿は月4回程度、HPの更新は30回程度行う)
- ・農大ホームページ上で学生募集につながるように取り組む。
- ・実施しているPRの方法についての効果を検証し、より効果的な手法があれば取り入れる。☆

②効果的な情報共有（SNS活用の推進）

- ・こまめに情報を収集し、学生の活動や行事の成果などを発信する。
- ・各種SNSを更新する人数を増員し、更新の頻度を上げるなど情報発信力の向上に努める。
- ・決裁方法の簡素化を行い、更新作業の負担軽減に努める。

③学生発信のPR活動

- ・SNS等を利用した学生発信を行い、学生の生の学習風景や農大の魅力を発信する。☆

■令和7年度の実施状況

宮崎県立農業大学校
2025年12月3日

11月29日(土)に第41回農大祭を開催しました。
今年も好天に恵まれ、2,000人を超える方... もっと見る



この投稿を宣伝してページのリーチを増やしましょう: 宮崎県立農業大学校.

投稿を宣伝

85

宮崎県立農業大学校
2月10日

1月8日(木)から9日(金)にかけて鹿児島市で開催された九州地区農業大学校プロジェクト・意見... もっと見る



この投稿を宣伝してページのリーチを増やしましょう: 宮崎県立農業大学校.

投稿を宣伝

75

評価項目	1. 学生確保	イ. 募集活動	教務学生課
------	---------	---------	-------

令和7年度の目標	入学定員 65 名の確保（農学科 40 名、畜産学科 25 名）
----------	----------------------------------

■取組計画

☆は、新たな取組又は強化する取組 ※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

◇目標に対する取組等

①高校訪問、進路ガイダンス、オープンキャンパス等による積極的な募集活動

- ・学校説明会や進路ガイダンスへの積極的な参加に努める。
- ・学校HPやSNSを活用した情報の発信に努める。
- ・関係機関の事務所等に、学生募集の資料、チラシ等の配布、掲示等を依頼する。
- ・マスコミ（新聞・TV等）を積極的に活用し、学校行事や取組の情報発信に努める。

②農業系以外の高校へのPR活動強化

- ・農業系以外の高校（普通、工業、商業、海洋、私立校など）に向けたPR活動の強化を図る。
- ・本校から4年制大学への編入が可能であることをPRするなど、本校が高校生の新たな進路選択先の一つになるよう努める。
- ・高校訪問による授業参観及び意見交換会の実施を行う。（再）

③入試手続き等のデジタル化を推進する。☆

- ・入学料及び受験手数料等のキャッシュレス化に努める。
- ・出願手続きのデジタル化に努める。

■取組実績と成果

①高校訪問、進路ガイダンス、オープンキャンパス等による積極的な募集活動

- ・4月には農大幹部職員が、5月以降は一般職員が県内全ての高校を訪問し、農大の魅力や概要を説明した。
- ・県外も含めて高校が主催する進路ガイダンスに25回参加し、農大の魅力PRに努めた。
- ・学校のHPやSNSを活用した情報発信が、十分にはできなかったことから、今後は、日常的にトピックスを収集・発信できる体制を構築する必要がある。
- ・関係機関に、学生募集の資料（学校パンフレット）や農大祭のポスター等を配布し、農大の周知拡大に努めた。
- ・広報戦略室と連携したYouTube動画制作・発信など、農大のPRに努めた。
- ・オープンキャンパスを、7月と8月に実施し、参加した88名の高校生に体験授業を通じて、農大の魅力を体感してもらった。その結果、オープンキャンパスに参加した生徒の中に45名が受験し合格した。

②農業系以外の高校へのPR活動強化

- ・普通科高校に対しては、本校の4年制大学への編入実績を中心に農大の魅力を積極的にPRした。
- ・10月に高鍋高校、11月に宮崎農業高校、12月に高鍋農業高校で、授業参観を実施するとともに各校の進学に関する情報について意見交換を行い、生徒の進学先情報について共有することができた。

③入試手続き等のデジタル化を推進する

- ・令和9年度からデジタル推進課と連携を通じて、Webサイト上での受験申請システムおよび、入学料・受験手数料等の電子納付機能の手続きができるようになった。

内部評価	A	県内全高校への訪問や編入実績のPRなど募集活動を展開し、県外入学者成果を上げることができた。また、受験者の利便性を高めるWeb出願への円滑な移行を進めることができた。
外部評価		

◆次年度への課題

農業系高校以外の高校には、「スマート農業」「農業経営」「4年制大学進学」など、相手校に関心を得られるようなPRチラシを作製する等、農大の魅力を伝える手法の検討が必要。

評価項目	1. 学生確保	イ. 募集活動	教務学生課
令和8年度の目標	入学定員65名の確保（農学科40名、畜産学科25名）		

■取組計画

☆は、新たな取組又は強化する取組 ※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

◇目標に対する取組等

①高校訪問、進路ガイダンス、オープンキャンパス等による積極的な募集活動

- ・学校説明会や進路ガイダンスへの積極的な参加に努める。
- ・関係機関の事務所等に、学生募集の資料、チラシ等の配布、掲示等を依頼する。
- ・マスコミ（新聞・TV等）を積極的に活用し、学校行事や取組の情報発信に努める。

②農業系以外の高校へのPR活動強化

- ・農業系以外の高校（普通、工業、商業、海洋、私立校など）に向けたPR活動の強化を図る。
- ・本校から4年制大学への編入が可能であることをPRするなど、本校が高校生の新たな進路選択先の一つになるよう努める。
- ・高校訪問による意見交換会を行う。

③入試手続き等のデジタル化を推進する。

- ・出願手続きについては、学生のニーズに合わせて、デジタル出願と紙媒体の併用ができるよう努める。

■令和7年度の実施状況



オープンキャンパス開校式（全体会）



自治会の学生から高校生に説明（学生寮説明）

評価項目	2. 教育の質の向上	ウ. 講義・演習	教務学生課 農 学 科 畜 産 学 科 ○フードビジネス
------	------------	----------	---------------------------------------

令和7年度の目標	①多様化する学生の進路選択に対応したカリキュラム、シラバスの充実 ②基本的な生産技術と経営スキルの習得
----------	--

■取組と計画

☆は、新たな取組又は強化する取組 ※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

- ①多様化する学生の進路選択に対応したカリキュラム、シラバスの充実
- ・ 四年制大学編入に対応したカリキュラム、シラバスの内容見直し
 - ・ 四年制大学編入を目指す学生対象とした講義「英語特別演習」の実施
 - ・ 実習教師を目指す学生対象とした講義「農業科教育法」の実施
- ②基本的な生産技術と経営スキルの習得
- ・ 農業法人（企業）と連携した実践的な講義・演習の実施
スマート農業活用、農業生産工程管理、法人経営、アグリビジネス、マーケティング など
 - ・ 資格取得等による生産技術の向上
農薬散布用ドローン操縦資格、土壤医検定3級、農業気象学（環境制御等含む） など
 - ・ 「アグリカレッジひなた」での実践学習を通じた経営スキルの習得

■取組実績と成果

- ①多様化する学生の進路選択に対応したカリキュラム、シラバスの充実
- ・ 四年制大学編入に向け、宮崎大学、南九州大学、東海大学と単位認定に関する考え方を中心に協議を行い、宮崎大学については、3年次の編入にも対応できるシラバスの改善を行った。
 - ・ 夏休み集中講義として、「英語特別演習」を実施し、英語力の強化を図った。
 - ・ 「農業科教育法」では、農業高校での授業、実習の見学や、受講学生による模擬授業を取り入れ、講義内容の充実を図った。
- ②基本的な生産技術と経営スキルの習得
- ・ スマート農業で14企業、2大学、アグリビジネスでは7法人など、県内法人を中心に30以上の法人、企業と連携した実践的な講義・実習を実施し、学生がスマート機器の活用方法や、多様な経営手法を学ぶ機会を増やした。
 - ・ 農薬散布用ドローン操縦資格は22名、土壤医検定3級は1名の学生が取得するなどし、栽培管理作業の効率化や専門知識の理解度向上につながり、生産技術の向上に寄与できた。
 - ・ 「アグリカレッジひなた」では、学生自身が農畜産物生産、出荷、販売の一連を実践することで、接客マナーや売上向上のための工夫、会計処理など、幅広い経営スキルの習得につながった。また、役員を務めた学生を中心に、各部の業務の進捗管理や業務改善に向けたアイデア提案など、マネジメント力の習得にもつながった。

内部評価	A	・ 近隣の大学と直接協議を行ったことで、宮崎大学の3年次編入に対応したシラバスに改善することができた。 ・ 農業法人や民間企業との連携を強化し、生産現場の先進技術や経営手法を学ぶことができた。
外部評価		

◇次年度への課題

- ・ 四年制大学編入や農業指導者の育成に対応したカリキュラム、シラバスの見直しと支援体制の構築
- ・ 基本的な生産技術と経営スキルの習得をするための教育内容の再構築

教務学生課
農 学 科
畜 産 学 科
○フードビジネス

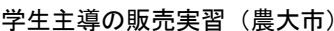
①多様化する学生の進路選択に対応したカリキュラム、シラバスの充実
②基本的な生産技術と経営スキルの習得

☆は、新たな取組又は強化する取組 ※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

- ①多様化する学生の進路選択に対応したカリキュラム、シラバスの充実
- ・四年制大学編入や農業指導者の育成に対応したカリキュラム、シラバスの見直しについての検討
 - ・自営就農や法人就農、四年制大学への編入や農業指導者など、多様化する学生の進路選択に対応した
在学2年間の進路スケジュールや進路別受講科目一覧を作成し、計画に基づく教育の実践 ☆
 - ・資格取得を目指す科目においては、高い専門性を有した外部講師を活用し、講義内容の充実
- ②基本的な生産技術と経営スキルの習得
- ・生産技術や経営管理能力の向上を目指し、農業法人・企業と連携した実践的な講義・演習の充実
スマート農業活用、農業生産工程管理、法人経営、アグリビジネス、マーケティング など
 - ・「アグリカレッジひなた」の販売計画策定と学生主体の運営によるマネジメント力の向上 ☆

企業との連携による「マーケティング」の講義

アグリカレッジひなた体制図



評価項目	2. 教育の質の向上	エ. 研修 (①インターンシップ)	教務学生課 ○農 学 科 畜 産 学 科
------	------------	-------------------	----------------------------

令和7年度の目標	進路選択を見据えた研修指導の充実
----------	------------------

■取組

☆は、新たな取組又は強化する取組 ※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

- ①自主企画研修（1年次）
- ・教務学生課は、学生の進路希望に即した研修になるよう、総務課や各学科とも調整を行いながら、研修全体の企画運営に努める。
 - また、各学科は、教務学生課と連携しながら、学生指導や進捗確認、研修先との調整等を行い、8月末までに研修先を決定する。
- ②インターンシップⅡ（2年次）
- ・幅広い進路選択に対応できるよう、研修時期や研修内容等を検討する。

■取組実績と成果

- ①自主企画研修（1年次）
- ・昨年整備した研修先の情報を活用し、7月下旬から学生と研修先との調整を開始し、8月末までに学生の進路に即した研修先が選定できた。
 - ・実習においても研修先から基本的な栽培・飼養管理術のみならず、効率的な作業方法や農場運営のマネジメント、さらには農業に携わる仲間との連携の大切さなど、将来、農業に携わる上で重要となる事柄を広く学び、学生のプロジェクト選定や進路決定に有益なものとなった。その結果自主企画研修先へ就農した学生は6名となり、雇用就農した学生31名の約2割を占めている。
- ②インターンシップⅡ（2年次）
- ・実施時期が遅く、受入先からも前倒しの要望がることから、現行の同時期にインターンシップを行うやり方は廃止し、代替案を検討した。

内部評価	B	自主企画研修は学生の就農先の選定に活用されるとともに、学生の技術やマネジメント力向上に役立っている。
外部評価		

◇次年度への課題

- ・インターンシップⅡの代替案の検討

評価項目	2. 教育の質の向上	エ. 研修 (①インターンシップ)	教務学生課 ○農 学 科 畜 産 学 科
------	------------	-------------------	----------------------------

令和8年度の目標	進路選択を見据えた研修指導の充実
----------	------------------

■取組

☆は、新たな取組又は強化する取組 ※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

- ①自主企画研修 (1年次)
・既に整備した研修先情報を活用し、学生の進路希望に即した研修先を8月末までに決定する。
- ②インターンシップⅡの代替案の検討
・休日や長期休暇を利用してインターンシップを行う学生に対し、単位加算が認められるよう検討する。☆

■令和7年度の実施状況



畜産試験場



JAみやざき児湯地区本部



【インターンシップⅡ

総合農業試験場

JAみやざき
日向地区本部



評価項目	2. 教育の質の向上	エ. 研修 (②職員研修)	教務学生課 ○農 学 科 畜 産 学 科 フードビジネス
------	------------	---------------	---------------------------------------

令和7年度の目標	職員の指導力向上
----------	----------

■取組計画

☆は、新たな取組又は強化する取組	※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応
(1) 職員の指導力向上 ① 専門指導力向上のために資格取得 (延べ6名) ② 高等学校の公開授業参加 (7名) ③ 教職員による校内指導力強化研修の実施 (Google classroom 2回) ④ 教育委員会主催職能研修等参加 (5名) 及び農政水産部主催農業技術研修・試験場成果報告参加 (5名)	

■取組実績と成果

(1) 専門指導力向上のために資格取得 (延べ6名) ① ドローンオペレーター (2名)、ドローンインストラクター (2名)、大型特殊農耕用 (3名) フォークリフト (5名)、有機農産物の生産工程管理者 (1名)、食品衛生責任者 (1名) 目標6名/実績14名 100%以上 ② 高等学校の公開授業参加 (15名) 目標7名実績15名 100%以上 宮崎農業高校 (2名)、高鍋農業高校 (5名) 高鍋高校 (8名) ③ 教職員による校内指導力強化研修の実施 2月25日 目標2回実績1回 50% ④ 教育委員会主催職能研修等参加 (2名) 及び農政水産部主催農業技術研修・試験場成果報告参加 (13名) 実績計18名目標10名 100%以上 (内訳) ・ 宮崎県高等学校農業教育研究会「食品部会」(8名)、高校教育情報研修会 (1名) ・ 児湯地区営農振興協議会野菜部会 (1名)、試験場・農研機構成果報告会 (4名)、課題解決研修「土壌、病害虫、果樹」(3名)、地域の技術研修会「有機・環境制御」(8名) 環境制御や有機栽培、果樹の課題解決研修など本校のほ場やデータ等を活用した研修が増えたことで、講義との調整が少なくなり、研修に参加しやすくなった。その結果、専門指導力向上につながった。 高等学校の公開授業の参加により、ICT活用の状況や学生を集中させる授業のコツが分かるなど指導力向上につながった。		
内部評価	A	各種研修会の参加や資格取得により、実践的な学生指導に活かすことができた。
外部評価		

◇次年度への課題

・ 職員の異動に伴う学生への指導力対策として、google classroomを含めた講義等の校内研修を年度当初に開催する必要がある。 ・ 教え方の引継資料の整備。

評価項目	2. 教育の質の向上	エ. 研修（②職員研修）	教務学生課 ○農 学 科 畜 産 学 科 フードビジネス
------	------------	--------------	---------------------------------------

令和8年度の目標	職員の指導力向上
----------	----------

■取組計画

☆は、新たな取組又は強化する取組

※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

(1) 学生指導力の向上☆

- ① I C T活用や特性のある学生対応の研修（3回）
- ② 教え方の引継資料の整備

(2) 専門指導力の向上

ドローンオペレーター、ドローンインストラクターなど職員の各種資格取得(延べ6名)

■令和7年度の実施状況



ICT研修会の様子



研修会資料

評価項目	2. 教育の質の向上	オ. プロジェクト学習	農 学 科 ○畜 産 学 科 フードビジネス
------	------------	-------------	------------------------------

令和7年度の目標	高大、産学官、地域と連携したプロジェクト活動による高度な技術の修得
----------	-----------------------------------

■取組計画

☆は、新たな取組又は強化する取組	※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応
①食品企業やチャレンジファーム等と連携した研修の継続実施（3回） ②外部講師を招聘した合同研修などの高大連携活動の継続実施によるプロジェクト学習の強化 ③環境負荷低減に関するプロジェクト学習を進めるための、地域資源の有効活用や有機栽培を 実践する地域の企業、団体による講座開講（3回）及びプロジェクト学習の実践	

■取組実績と成果

①食品企業やチャレンジファームと連携した研修を継続実施したことで、高度な技術の修得が図られた。 ・食品企業の(株)ミヤチクを講師に食肉加工製造研修会（7/10、11）を実施 ・チャレンジファームと連携した畑かん資機材の実演研修（9/5）、レーザーレベル実演会（10/28、12/18、1/15）、キャベツ定植のための直進アシスト付きトラクター・キャベツ移植機操作研修（1/20）を実施 研修実績 7 回／目標 3 回 233%		
②高鍋農業高校との連携活動を継続実施したことで、プロジェクト学習への意欲向上や内容の充実が図られた。 ・（作物専攻）ライスセンター等の共同視察と情報交換（6/24）、次年度のアイガモロボットを活用したプロジェクト活動協議及び有機水稻の栽培技術情報交換（1/29） ・（野菜専攻）メロンの施肥や連作障害対策、隔離ベツ栽培法に係る検討（6/24） ・（花 専 攻）フラワー装飾技能検定講習会への高鍋農業高校生徒の参加（6/20、26）、寄せ植え教室の共同開催（11/19） ・（果樹専攻）相互の栽培品目についての意見交換（9/19）、高鍋農業高校農場視察及び情報交換（12/17） ・（畜産学科）高鍋農業高校農場の視察（7/22）、意見交換（7/22、10/9）、学科プロジェクト発表会への高農生徒の参加（12/8） ・（フード専攻）食肉加工製造研修会の共同実施（7/10、11）、販売会「ミルクフェスタ」の共同開催（10/26）、高鍋農業高校食品科学科教諭を講師とした乳加工研修会の開催（1/15）		
③地域資源の有効活用や有機栽培を実践する農業経営体、企業による講座等を実施したことで、環境負荷低減に関する技術の習得が図られた。 ・環境負荷軽減の取組を実践している農業経営体や関係企業等による講座を4回開催（1/30、2/3、2/10、2/19） ・有機農業を実践している農業経営体への視察研修を2回実施（7/24、29） 講座開講実績 4 回／目標 3 回 133%		
内部評価	A	・食品企業やチャレンジファーム、高鍋農業高校、環境負荷軽減を実践する農業経営体等との連携による研修等を実施したことで学生のプロジェクト学習の充実が図られた。
外部評価		

◇次年度への課題

・学生に高度な技術を習得させるためには、高度な技術を持つ地域の民間企業等と連携した教育が必要 ・お互いの強みを生かした高大連携活動への積極的取り組みが必要
--

評価項目	2. 教育の質の向上	オ. プロジェクト学習	農 学 科 ○畜 産 学 科 フードビジネス
------	------------	-------------	------------------------------

令和8年度の目標	高大、産学官、地域と連携したプロジェクト学習による高度な技術の修得
----------	-----------------------------------

■取組計画

☆は、新たな取組又は強化する取組

※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

- ①高度な技術を持つ地域の民間企業等と連携した研修や講座の継続実施する（6回）
- ②お互いの強みを生かした合同研修や共同研究などの高大連携活動に積極的に取り組むことによりプロジェクト学習を強化する ☆

■令和7年度の実施状況



チャレンジファーム キャベツ定植研修



チャレンジファーム レーザーレベル操作研修



高鍋農業高校での鉢植え教室



高鍋農業高校教諭による乳加工実習

評価項目	2. 教育の質の向上	力. 学生指導・支援	教務学生課 農 学 科 ○畜 産 学 科
------	------------	------------	----------------------------

令和7年度の目標	①自発的・自主的な学生自治活動の実践 ②農場長を中心とした農場運営の充実とGAP・HACCPの実践力の強化
----------	--

■取組計画

☆は、新たな取組又は強化する取組 ※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応	
(1)自発的・自主的な学生自治活動の実践 ①実効性のある活動となるように、学生が自治会活動計画を自発的に策定するよう促す。 ②学生寮清掃状況の定期的自己点検により、 <u>週1回のクリーン（環境美化）活動の実践を促す☆</u> ③各部会活動の実施後に、部会員一人ひとりに課題抽出と改善策の検討を行わせることで活動の充実を促す。	
(2)農場長を中心とした農場運営とGAP・HACCPの実践力強化 ①学生がGAP・HACCPを自主的に実践できるよう、制度内容をしっかり理解させるとともに、対応手法を習得できるよう指導の強化を図る。	

■取組実績と成果

(1)自発的・自主的な学生自治活動の実践 ①定期役員会の月1回開催を指導したことで、スムーズな行事運営が行われた。学生が自治会を運営しようとする自覚を持った活動が多くなり、役員の意欲も向上し、運営力や実践力を身につけさせることが出来た。 ②週一回のクリーン活動については活動不足な部分もあり、目標達成には至らなかった。改善に向け、美化委員会と寮長が中心となった寮清掃についての話し合いをするよう指導したことで、これまで担当割当のなかった清掃区域を新たに設定するなど意欲的な活動が見られた。 ③各行事終了後に集会を開催し課題や改善策を討議するよう指導したことで、学生の自覚が高まり、学生同士が対話を重ねながら主体的な活動が多くなったことで、活動の充実につながった。		
(2)農場長を中心とした農場運営の充実とGAP・HACCPの実践力強化 ①学生から選出した農場長に農場運営を統括させたことで、学生主体の農場運営が充実し、学生の農場経営管理能力が向上した。 1、2年生それぞれへのGAP演習講義により、制度内容やリスク評価、自己点検手法などを習得させるとともに、農学科におけるMIYAZAKI-GAP審査(青果物審査11月、穀物審査2月)、畜産学科におけるJ-GAP審査(11月)を学生が主体的に受審することで、実践力が高まった。		
内部評価	B	・学生自治会のクリーン活動については、寮清掃の話し合い実施など意欲的な活動が見られたが、実践が不足しており改善が必要。 ・学生が主体的にGAP審査を受審したことで、実践力が養成できた。
外部評価		

◇次年度への課題

・学生自治活動について、クリーン活動の自主性向上が必要。 ・農業法人は農場経営管理能力のある人材を求めていることから、GAP実践を通じた農場経営管理能力の向上が必要。
--

評価項目	2. 教育の質の向上	力. 学生指導・支援	教務学生課 農 学 科 ○畜 産 学 科
------	------------	------------	----------------------------

令和8年度の目標	①自発的・自主的な学生自治活動の実践 ②農場でのGAP実践を通じた農場経営管理能力の向上
----------	---

■取組計画

☆は、新たな取組又は強化する取組 ※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

(1) 自発的・自主的な学生自治活動の実践

- ①実効性のある活動となるように、学生が自治会活動計画を自発的に策定するよう促す。
- ②学生寮の週1回のクリーン（環境美化）活動を自主的に実践させるため、環境美化部と寮長が中心となった寮清掃に関する定期的話し合いを促す ☆
- ③各部会活動の実施後に、部会員一人ひとりに課題抽出と改善策の検討を行わせることで活動の充実を促す。

(2) 農場でのGAP実践を通じた農場経営管理能力の向上

- ①引き続き、学生主体でGAPを実践させ、農場長を中心とした農場運営を体験させることで、学生の農場経営管理能力向上を図る。

■令和7年度の実施状況



農学科MIYAZAKI-GAP審査



畜産学科JGAP更新審査

評価項目	3. 進路指導	キ. 資格取得	○教務学生課 農 学 科 畜産学科 フードビジネス
------	---------	---------	------------------------------------

令和7年度の目標	実用的な資格取得の推進
----------	-------------

■取組計画

☆は、新たな取組又は強化する取組 ※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

(1) 資格取得に関わる改善等

①隙間（ゆとり）時間をもたらす教育効果について ☆

- ・取得済みの資格を単位化することで、空き時間を有効活用し新たな資格取得や就職活動に専念する時間の確保に努める。（資格取得の推進、就職活動の充実、ゆとりある学校生活の推進）

②進路選択に反映できる資格取得の推進

- ・大型特殊免許、けん引、人工授精師、削蹄師等の有用的な資格取得の推進する。
- ・ドローン操作演習を選択教科とし、単位取得を「講義」と「実技」に分けるなど、学生のニーズに合った形に改善する。（カリキュラムの改善）

■取組実績と成果

(1) 資格取得に関わる改善等

①隙間（ゆとり）時間をもたらす教育効果について ☆

- ・令和6年度に本校における「履修の手引き」を改正し、資格取得等による単位加算を認定したことで、令和7年度は、資格取得済みの単位を11名（情報処理基礎：6名、農業簿記演習：5名）が修得した。
- ・令和7年度は、11名全員が1年生であり、空き時間を有効活用した新たな資格取得や実習等に専念できた。

②進路選択に反映できる資格取得の推進

- ・積極的な資格取得に取り組んだ結果、本校で取得可能な27種のうち、以下の資格取得につながった。
（農耕用限定）大型特殊免許（62名）・けん引免許（58名）、家畜人工授精師免許（牛26名、豚2名）、2級認定牛削蹄師（24名）、家畜体内受精卵移植免許（7名）
- ・農業ドローン技能認定（オペレーター）にかかる単位取得を「講義（1単位）」と「実技（1単位）」に分けたことで、受講希望学生が増加し、技能認定取得（22名）につながった。
（令和6年度：10名取得）

内部評価	A	資格取得の促進により ・単位加算が計画どおりに進み、資格取得済みの単位を11名の学生が修得した。 ・学生にとって就農・就職する上で有用的な資格取得につながった。
外部評価		

◆次年度への課題

- ・進路選択に直結する実用性の高い資格取得の推進
- ・専門性の高い外部講師による教養科目の教育高度化（危険物取扱者、毒劇物取扱責任者など）

評価項目	3. 進路指導	キ. 資格取得	○教務学生課 農 学 科 畜産学科 フードビジネス
------	---------	---------	------------------------------------

令和8年度の目標	実用的な資格取得の推進
----------	-------------

■取組計画

☆は、新たな取組又は強化する取組 ※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

(1) 資格取得に関わる改善等

①進路選択に反映できる資格取得の推進

- ・ 大型特殊免許、けん引、家畜人工授精師、日本農業技術検定等の有用的な資格取得の推進する。
また、進路先で必要とされる資格取得を積極的に案内する。
- ・ OBや在校生にヒアリング調査を行い、カリキュラムを学生ニーズに応じた形に改善する。

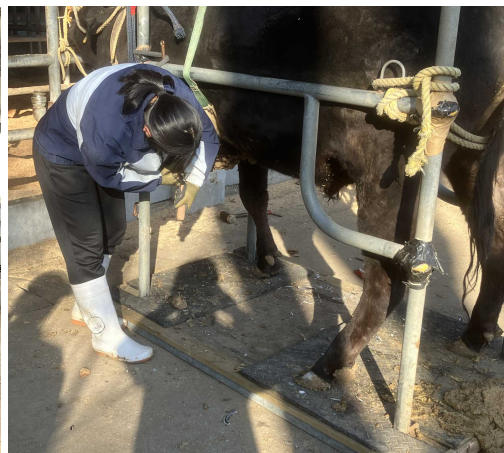
■令和7年度の実施状況



家畜人工授精実習（乳牛）



繁殖状況確認（肉用牛）



牛削蹄師認定講習会



大型特殊車両免許取得研修（農業機械）



情報処理基礎（講義風景）

評価項目	3. 進路指導	ク. 就農・就職対策	○教務学生課 農 学 科 畜 産 学 科 フードビジネス
------	---------	------------	---------------------------------------

令和7年度の目標	①年度内の進路決定 100% ②就農率 55%以上を確保
----------	---------------------------------

■取組計画

☆は、新たな取組又は強化する取組	※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応
◇目標に対する取組み等	
①年度内の進路決定 100%する	
・ 早期の個別面談による進路目標設定を充実させる。 ・ 進路目標達成に必要な知識と技術の習得を図る。 ・ キャリア形成に関するセミナーを新設するなど、支援の充実を図る。	
②農業法人組合や農業関連企業との連携を強化する（就農率 55%以上を確保）	
・ 法人マッチングの充実及び成果を活用した進路選択活動の推進を図る。 ・ 就職相談会の早期申込みや学生の意識高揚を行うために、情報提供の実施を図る。 ・ 就農コーディネーターや関係機関と連携した就農サポート体制の充実を図る。	
③新たな進路選択への対応 ☆	
・ 4年制大学編入への対応に努める。 ・ 実習助手希望者に対し、農業高校との連携による教育実習実施を図る。	

■取組実績と成果

①年度内の進路決定 100%する	
・ 学校生活アンケートを4月と9月に実施し、学生の希望に応じた進路指導を早期および堅実に対応したことから97.1%と高い進路決定率となった。進路決定した学生は68名で、進路決定率97.1%であった。（3月26日現在） ・ 全職員の共有ドライブに開設してある「見える化フォルダ」を利用し、学生情報や就職情報（試験情報も含む）の共有を推進することで、本校職員の進路指導に対する意識も向上した。 ・ 前年度からキャリア教育に関する研修会を2回（12月、3月）実施し、意識の向上に努めた。	
②農業法人組合や農業関連企業との連携を強化する（就農率 55%以上を確保）	
・ 法人マッチング（6月実施）に64社が参加（達成率116.7%）し、進路決定に大きく貢献した。 ・ 農業法人や農業関連企業、ハローワーク等との連携を随時実施するとともに、法人就農試験等の就職報告をまとめ、面接試験等の就職対策に有効活用できた。 ・ 就農希望者を対象に農業振興公社や就農コーディネーターによる支援を随時行った。即就農10名、法人就農32名、研修後就農3名で就農率64.2%である。（達成率116.7%）	
③新たな進路選択への対応 ☆	
・ 島根大学1名、高知大学2名、九州東海大学1名、酪農学園大学1名、編入学試験により合格した。 ・ 実習教師希望者に対して、宮崎農業高校と高鍋農業高校に授業視察を実施した。次年度に向けて、教育実習実施に向けて調整中。	

内部評価	A	・ 進路決定率が目標の97%以上である。 ・ 就農率が116.7%と達成率を大きく上回った。
外部評価		

◆次年度への課題

学生の就職のニーズに応えるため、より一層の教務と学科の連携を強化する。

評価項目	3. 進路指導	ク. 就農・就職対策	○教務学生課 農 学 科 畜 産 学 科 フードビジネス
------	---------	------------	---------------------------------------

令和8年度の目標	①年度内の進路決定 100% ②就農率 55%以上を確保
----------	---------------------------------

■取組計画

☆は、新たな取組又は強化する取組 ※「目標」の番号と「取組」の番号は呼応

◇目標に対する取組み等

- ①年度内の進路決定 100%する
 - ・個別面談の早期化による進路目標を設定し支援を強化する。
 - ・教務と学科の連携を強化し個別面談の充実を図る。
 - ・進路目標達成に必要な知識と技術の習得を図る。
- ②農業法人組合や農業関連企業との連携を強化する（就農率 55%以上を確保）
 - ・法人マッチングを充実し進路選択活動の推進を図る。
 - ・就職相談会の早期申込みや学生の意識高揚を行うために、情報提供の実施を図る。
 - ・就農コーディネーターや関係機関と連携した就農サポート体制の充実を図る。
- ③新たな進路選択への対応 ☆
 - ・4年制大学編入への対応に努める。
 - ・実習助手希望者に対し、農業高校との連携による教育実習実施を図る。
 - ・進路についての学生の多様なニーズを支援する。

■令和7年度の実施状況



法人マッチングの様子